

草筆木筆で描く不思議のらんたち

草画帖 55



桜
号



桜号です。
ソメイヨシノ、オオシマザクラ、
カンザクラ、シダレザクラなど。

蕩児の祭 3

桜も散った

羅漢の

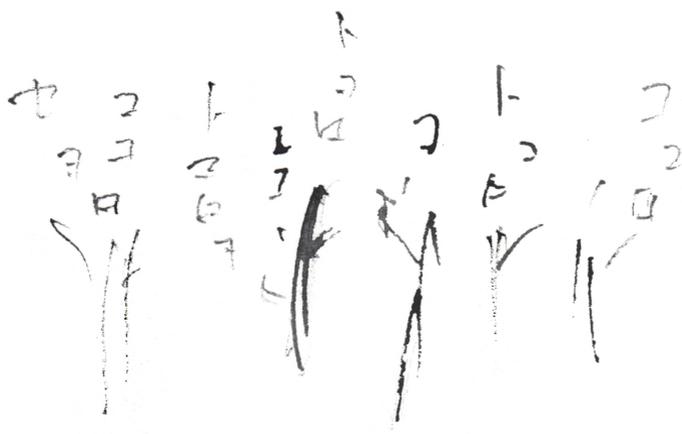
五百の

心も舞った

どこへ散るのか
それは知らずに

風に発して

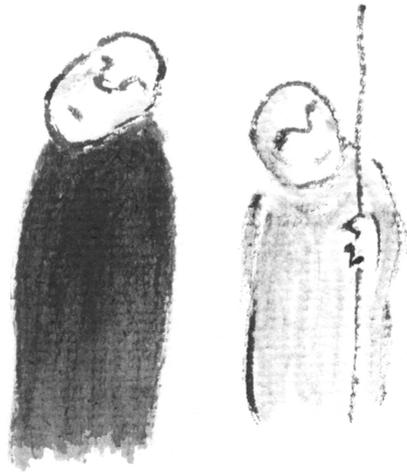
エーエンヤア



ココロノココ コノココ コノココヲ ココロセヨ。



花と明星。かたじけなさになみだこぼるる。



桜には鳥も来る、虫も来る、人また群がっては散ってゆく。



桃始笑という候がある。花笑う、花の笑みという季語がある。

桜今昔（二九八六―二〇二三）

現在を桜は遠く散ることよ

花曇り漂ふべしや竹生島

憂鬱を極めて花の盛りかな

花の日も円空なたを躊躇はず

花散つてまた妙好の人の声

豆腐屋の鐘をちこちす花の雨

花明り淋しき人体して通る

花陰に貧乏神の手酌かな

総ルビの鏡花一巻散るさくら

花曇り路の標に右・うつつ

自転車の児らの突込む花吹雪

夜桜を残し祭を仕舞ひけり

桜林に黒蝶の来てこの世なり



遠くの山にぼつぼつと烟るもの。吉野は山の彼方のかなた。



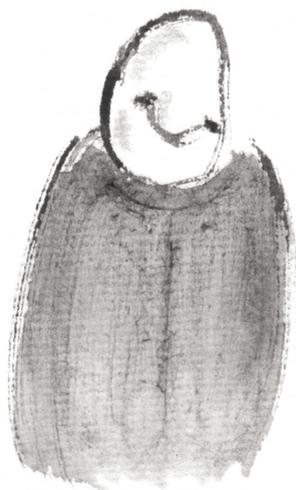
桜ばないのちーばいに咲くからに生命をかけてわが眺めたり
一岡本かの子



た
は
は
は
は
は
は



羅漢寺の桜の古木。その枯れた小枝を筆にして。



夢見草
桜三昧



桜の異称は夢見草。桜三昧、夢三昧の桜ん坊。



住吉神社の祭を彩ってきた桜。伐採された枝を形見の筆に。

草話

桜と言えば、この町ではやはり節句祭。豪華絢爛な化粧屋台の躍動と、咲き静もった満開の桜。或いは太鼓と囃子に合わせて舞しきる花びら。また、こんな歌もある。

へ酒見北条で 見せたいものは

五百羅漢に 五百羅漢に 散る桜

今、石仏群の並ぶ前に一本古い桜の木があつて、羅漢たちも毎年の楽しみだろうと思う。

*

里山の斜面に少しばかりの桜が植えてあつて、みんな背高のつぼ。一番上の東屋から眺めると、どこかすすかすかして、ここに居ると人も桜ももの静か。

ここに花の時期通つて、ひとときの書齋にしたいと願うこともあつたが、その頃は祭と重なり、そのうち近辺に猪が出没、坂道での息切れもひどくなつた。

この桜林にヒレンジャクが十羽ほど現れたり、クロアゲハが妖しく舞つたりした。下の池では翡翠色の鳥がつーと一文字に飛んだ。

山から下りたところで、コロコロ転がる蛙の美しい歌を聴いたこともある。

ココロノトコロ コノトコロ

ココノトコロヲ ココロセヨ



サクランボ

俳句 白山鳥翁 / 絵 艸々子 / 詩 泉井小太郎

草画帖 第55号 2023年3月31日 泉井小太郎編集 六角文庫発行
〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039 Tel 0790-42-6008